



JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

2023年3月期 決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証グロース：6039）

2023年5月19日



I 決算の概要

II 市場動向および中期展望



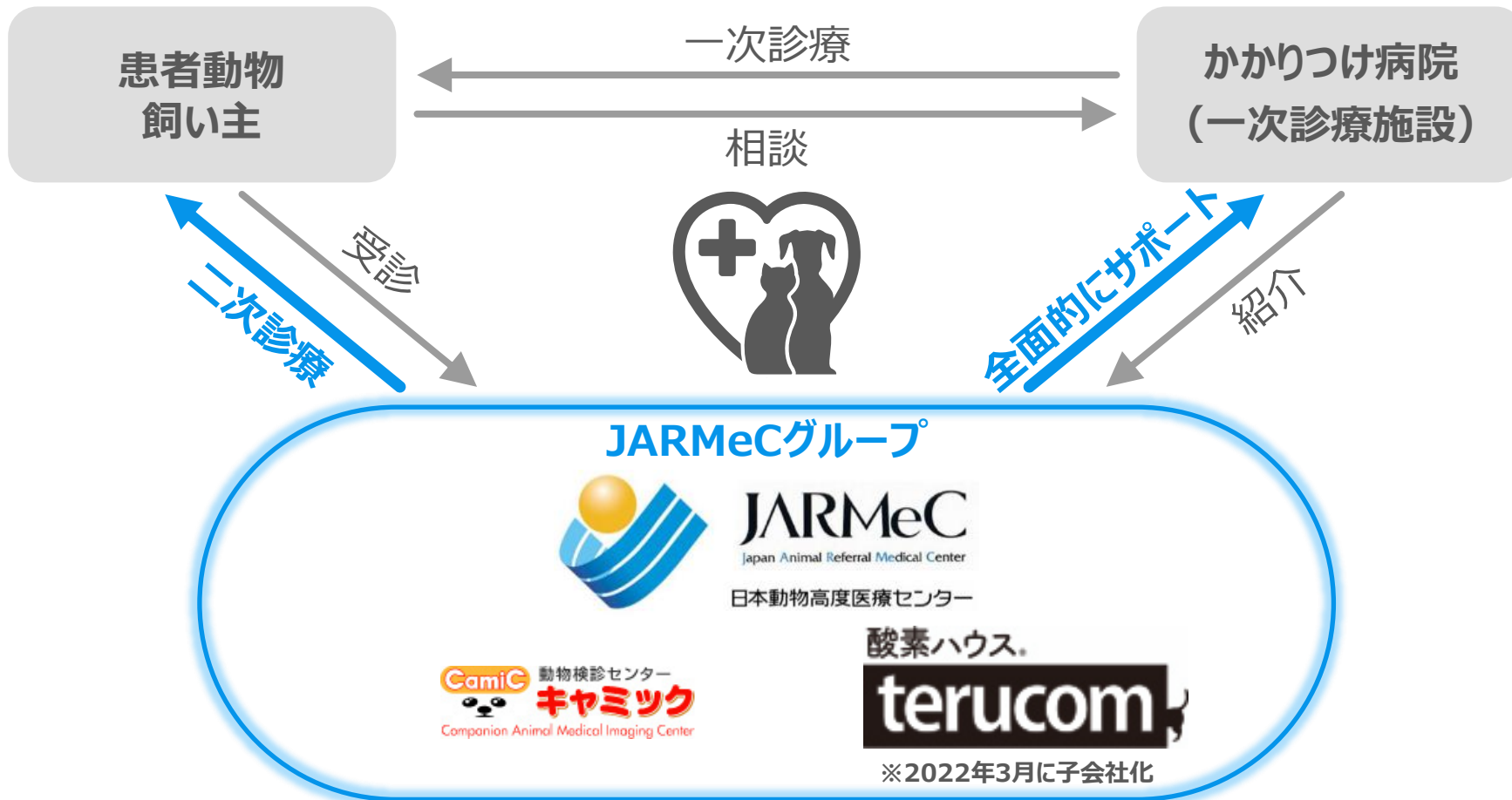


JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

I 決算の概要



当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ 二次診療を中心とした事業により、一次診療施設を全面的にサポート

2023年3月期 決算概要

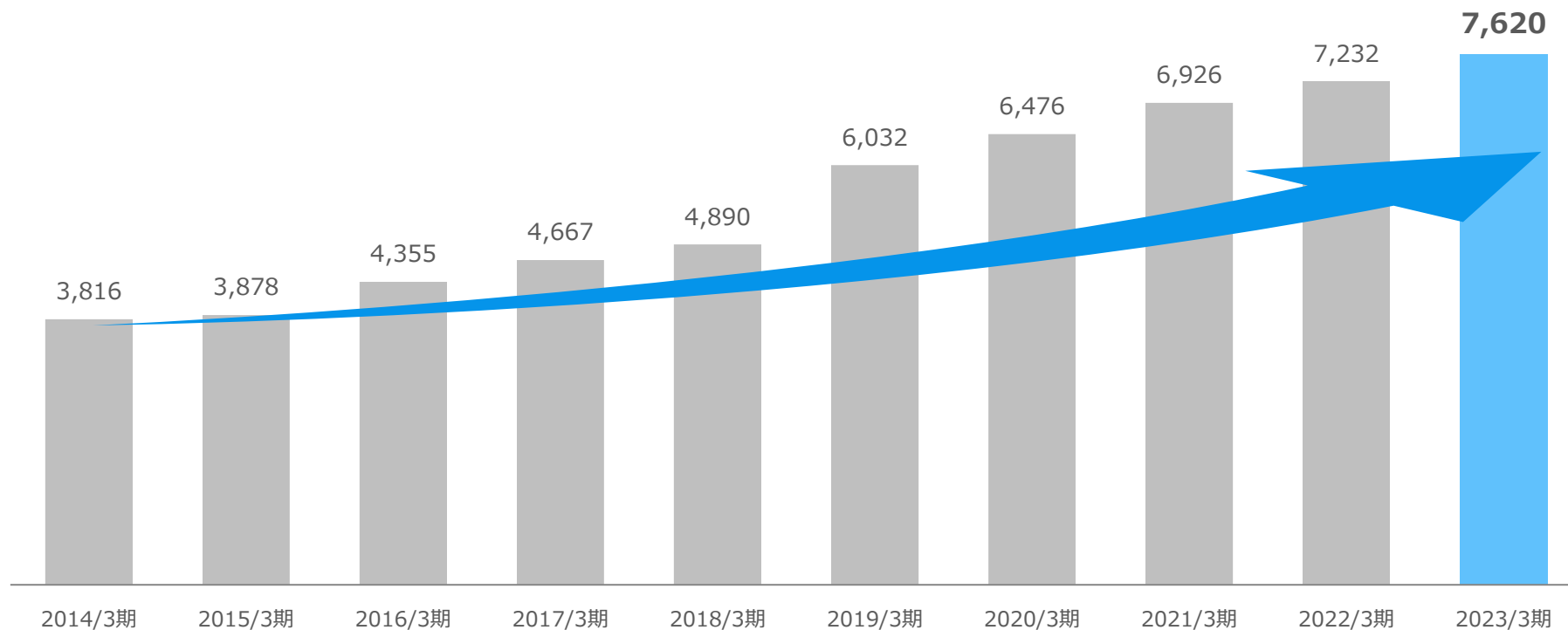
- 売上高、営業利益ともに前年を大きく上回り、過去最高を更新
- 初診件数も過去最高を更新

(百万円)	2022/3期		2023/3期				
	実績	構成比	実績	構成比	前年比 (金額・比率)		通期計画
売上高	2,979	100%	3,872	100%	+893	30.0%	3,860
二次診療サービス	2,434	81.7%	2,594	67.0%	+160	+6.6%	-
画像診断サービス	512	17.2%	472	12.2%	▲40	▲7.8%	-
健康管理機器レンタル・販売サービス	-	-	774	20.0%	-	-	-
営業利益	439	14.7%	580	15.0%	+141	+32.1%	535
経常利益	438	14.7%	534	13.8%	+96	+21.9%	540
親会社株式に帰属する 四半期純利益	286	9.6%	380	9.8%	+94	+32.9%	365
1株当たり 当期純利益	120.9円		156.3円		+35.4円	+29.3%	156.8円
初診件数	7,232件		7,620件		+388件	+5.4%	7,450件

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 既存病院の成長、新規病院の開院により、初診件数は毎年着実に増加

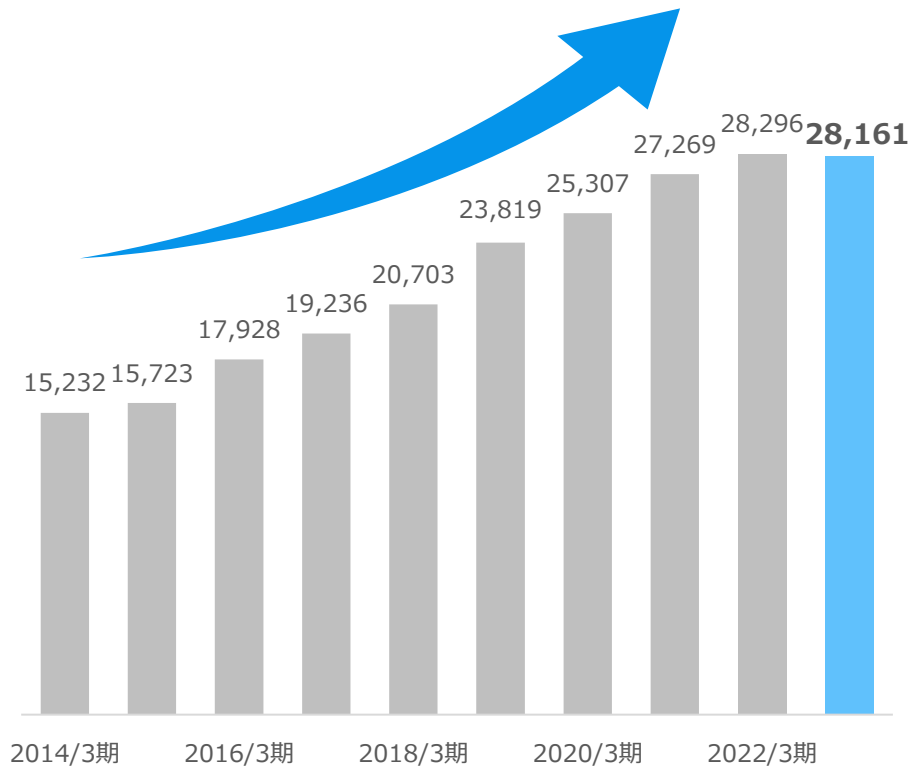
初診件数 7,620件



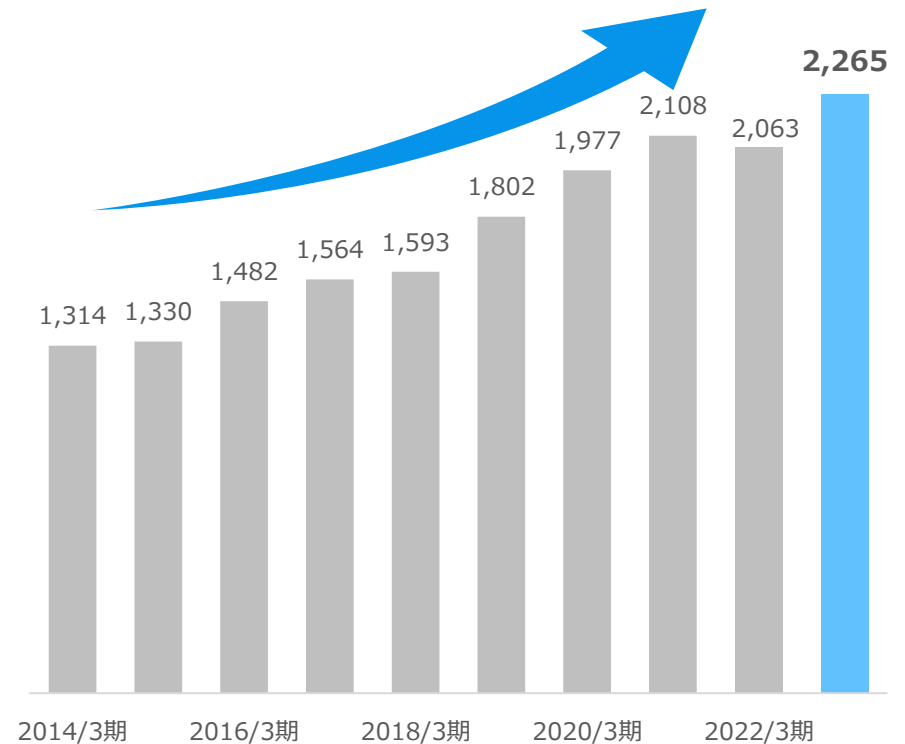
事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数はわずかに減少
- 手術件数は過去最高

総診療件数の推移



手術件数の推移

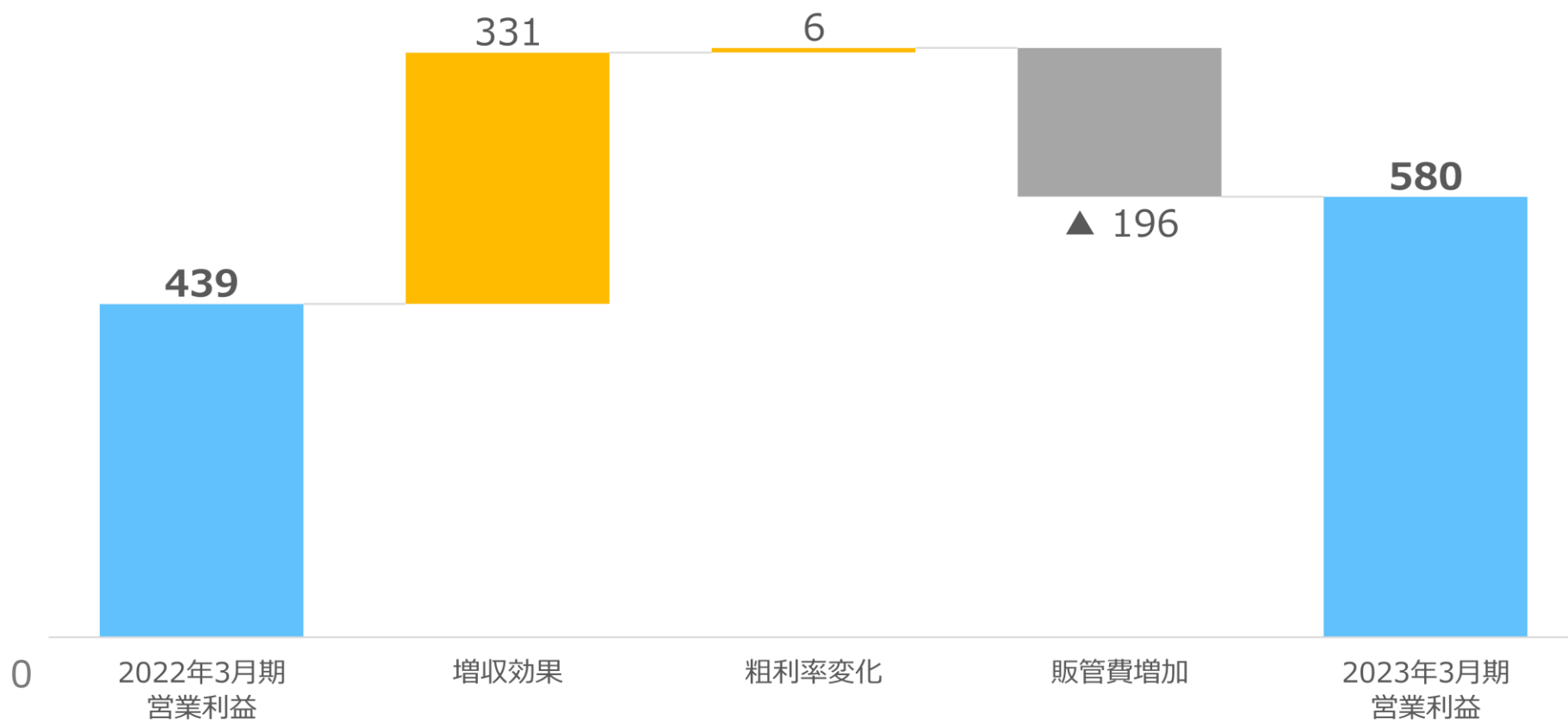


注：総診療件数は初診と再診の合計数

営業利益増減要因

- 人的資本には積極的に投資
- 増収効果により前期比1億41百万円増益

(百万円)



バランスシート状況

- 大阪病院開院に伴いバランスシートは拡大
- 自己資本比率は35.3%から43.2%へ改善

(百万円)	2022/3期	2023/3期	前期末比
流動資産	1,539	2,396	+857
現預金	1,068	1,916	+848
売掛金	228	263	+35
商品	119	95	▲24
固定資産	5,567	6,182	+615
有形固定資産	4,709	5,333	+624
無形固定資産	665	608	▲57
総資産	7,107	8,578	+1,471
負債	4,597	4,872	+275
有利子負債	3,921	3,975	+54
純資産（株主資本）	2,509	3,706	+1,197
自己株式	▲186	▲171	+15
負債純資産合計	7,107	8,578	+1,471

増資・利益計上により現預金は増加

有利子負債依存度は55.1%から46.3%へ低下

自己資本比率は35.3%から43.2%へ上昇

キャッシュフローの状況

- 営業CFは、増益に伴い前年比2億53百万円増加
- フリーCFは、26百万円

(百万円)	2022/3期	2023/3期	前年比	主な要因
営業CF	557	810	+253	
税金等調整前 当期純利益	423	533	+110	・ 営業利益増益
減価償却費	241	391	+150	・ テルコム買収に伴い減価償却費が増加
投資CF	▲1,425	▲784	+641	
有形固定資産取得	▲601	▲728	▲127	・ 大阪開院に伴う有形固定資産取得
FCF*	▲868	26	+894	
財務CF	722	820	+98	・ 増資によるもの
現金同等物の期末残高	968	1,816	+848	

*FCF（フリー・キャッシュフロー）＝営業CF+投資CF

2024年3月期の見通し

- 大阪病院開院により売上高は増収見込み
- 開業に伴うコスト増もあり利益は横ばい

(百万円)	2023/3期		2024/3期			
	実績	構成比	通期計画	構成比	前期比	
売上高	3,872	100.0%	4,140	100.0%	+268	+6.9%
営業利益	580	15.0%	555	13.4%	▲25	▲4.4%
経常利益	534	13.8%	565	13.6%	+31	+5.8%
親会社株主帰属 当期純利益	380	9.8%	385	9.3%	+5	+1.1%
初診件数	7,620件	—	8,400件	—	+780件	+10.2%

株主還元施策：初配当を実施予定

■ 2024年3月期 期末配当を予想

2024年3月期 期末配当

初配当

1株当たり配当金

配当性向

期末 **20円**

14.2%

今後の利益還元策について

配当性向10～20%を基本方針

事業拡大のための投資と
資本効率向上の最適なバランスを考慮

自己株式の取得

1株当たりの株主価値と
ROEの向上を目的として機動的に実施



JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

Ⅱ 市場動向および中期展望

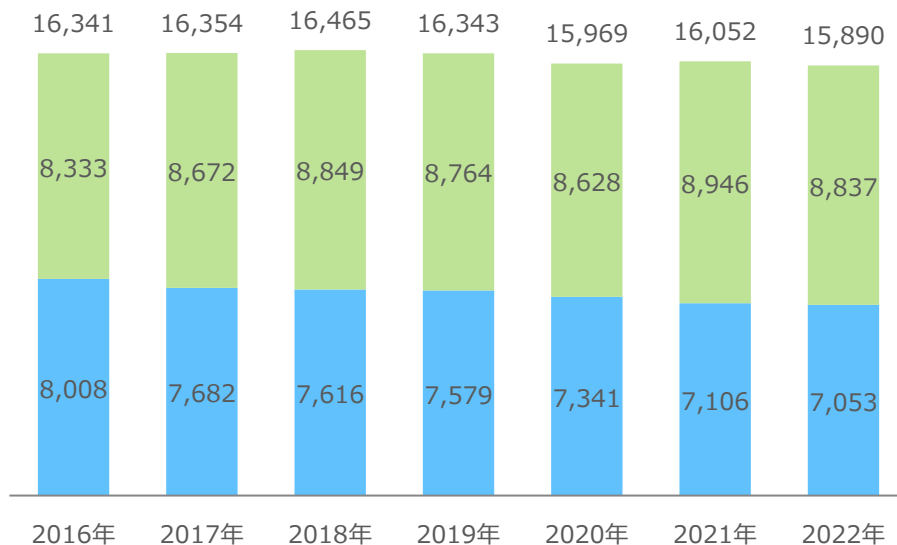


業界環境：犬猫飼育頭数は横ばい傾向が続く

- 2022年の犬猫飼育頭数は横ばいであったが、「新規犬飼育頭数」は増加

犬猫飼育頭数

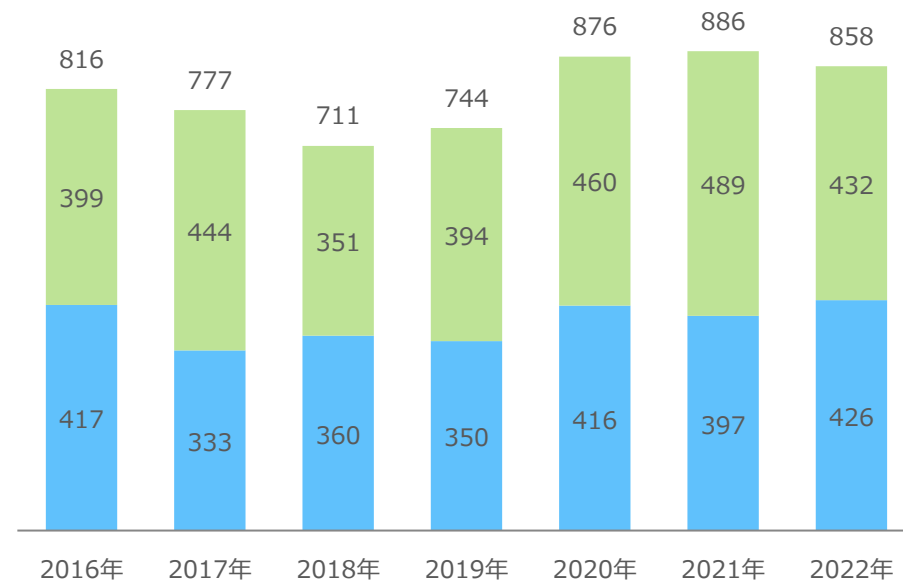
■ 犬飼育頭数 ■ 猫飼育頭数（千頭）



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含む）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数（千頭）

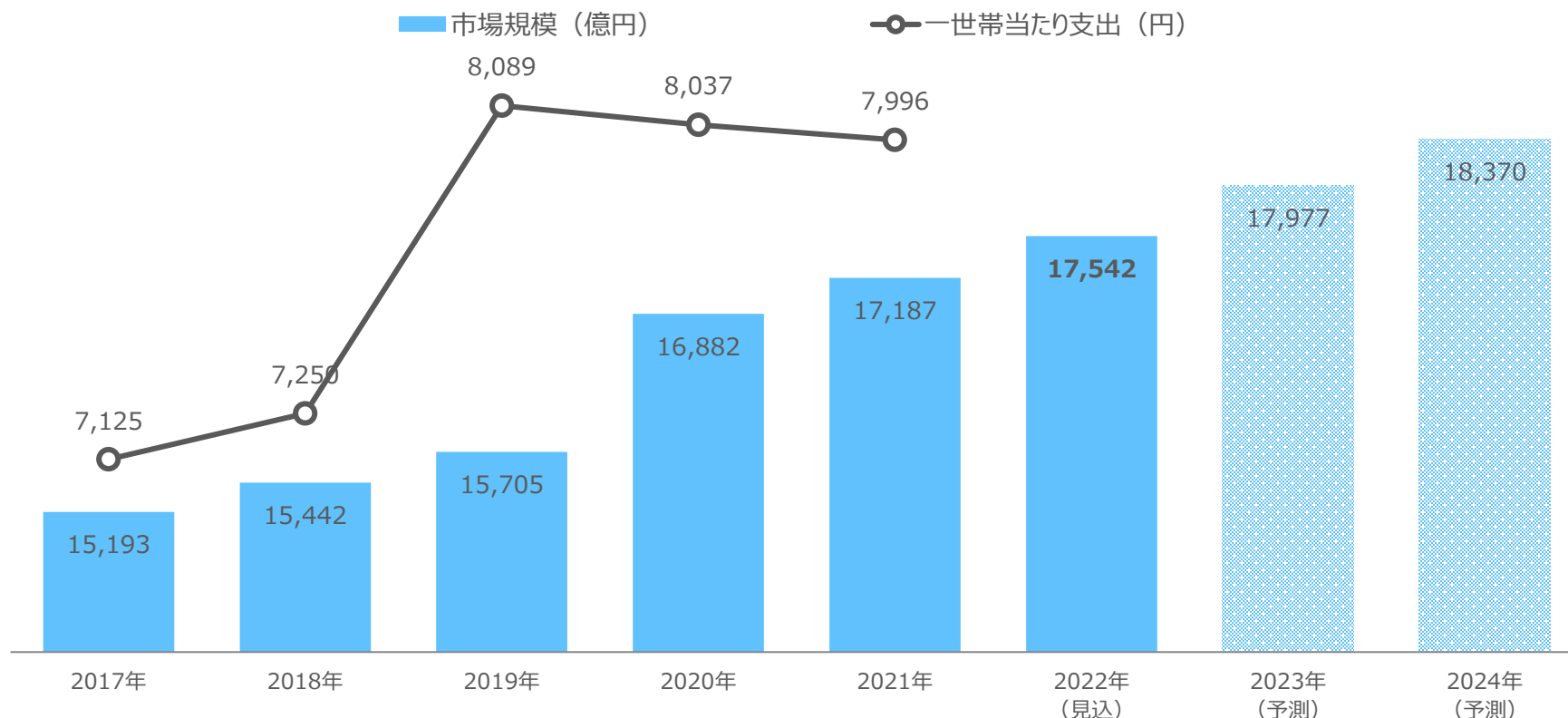


順調に拡大するペット関連市場

- 人口減少や少子高齢化が懸念される一方、ペットの家族化で動物医療に対する多様化・高度化要請は増加
- ペット医療やペット保険等ペットビジネスの付加価値化、裾野が拡大し、ペット関連総市場規模は年々拡大傾向

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体



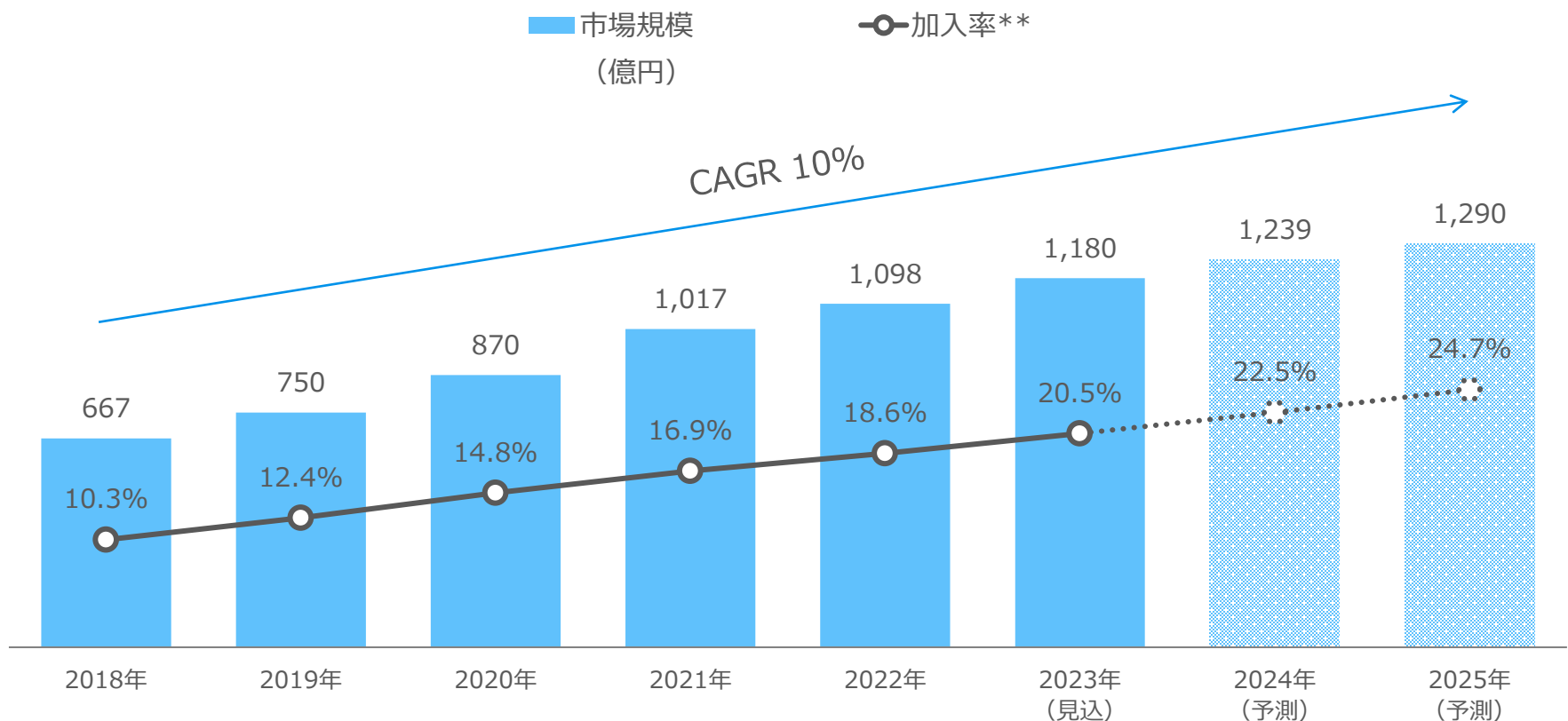
出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

ペット保険市場は確実に成長（1）

- ペット保険の市場規模は年平均10%拡大の見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい
- ペットへの健康意識の高まりなど、ペット保険により高額な治療費を払う飼い主が増加すると想定

ペット保険市場規模と加入率



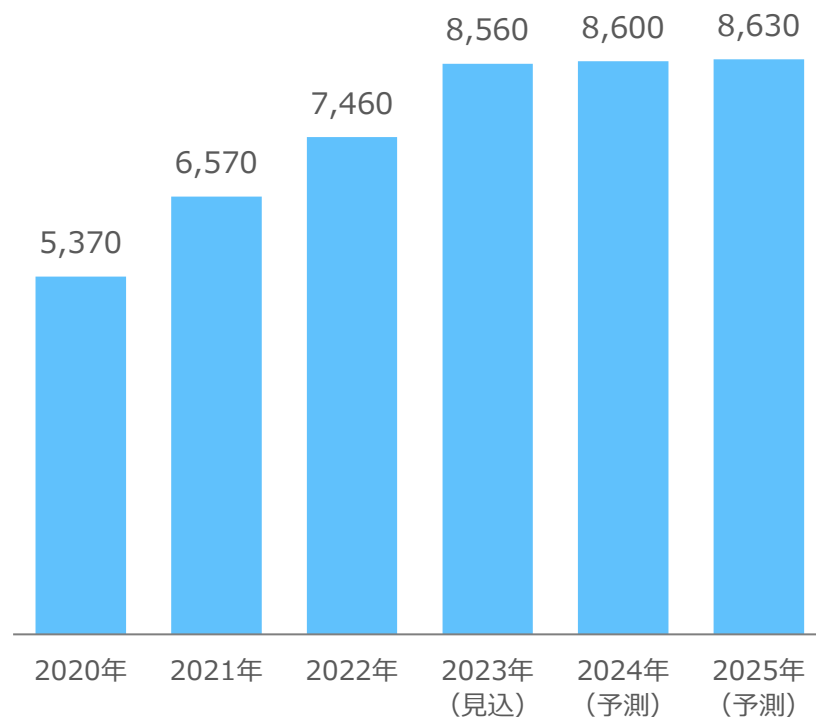
*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2023ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」
(注) 一部企業の見直しに伴いデータを遡って修正

ペット保険市場は確実に成長（2）

- CAGRは低下（13.5%→10.0%）も、市場の注目度は高く、登録代理店数は増加傾向
- 新規参入や大手企業による資本提携により、ペット保険各社は資金力、営業力を強化
- これまで開拓できていなかった層へのアプローチも期待され、市場は一層拡大する見込み

ペット保険市場 登録代理店数



ペット保険市場 直近のトピックス

社名	トピックス
アイペット損害保険	2023年1月、第一生命ホールディングスが親会社のアイペットホールディングスを子会社化
楽天損害保険	2022年、楽天少額短期保険から契約移転することで市場に参入。販売機会増加の見込み
FPC	2023年1月、アイフルが完全子会社化。オンラインチャネルでの積み上げ増加が期待

出所：富士経済「2023ペット関連市場マーケティング総覧」

- ① 拠点の展開と連携病院数の拡大
- ② 人材確保と業務効率化
- ③ 事業の多角化と協業加速

大阪病院が開院／6月1日より診療開始



所在地

大阪府箕面市船場西3-14-7

診療科

- 循環器・呼吸器科
- 泌尿器生殖器・消化器科
- 脳神経・整形科
- 腫瘍科
- 放射線・画像診断科
- 麻酔科

主要な医療機器

- MRI
- CT
- 放射線治療器（2024年導入予定）

大阪病院における症例紹介の獲得

- 新規のお客様獲得にむけて営業活動を実施

症例紹介の獲得活動

地域の動物病院への宣伝活動



- ・ 院内セミナー・勉強会開催
- ・ 施設見学会開催
- ・ 症例の学会発表



症例紹介



当社紹介の理由

- ① 獣医師・看護師の質が高い
- ② 医療設備が優れている
- ③ 診断力・治療技術が高い
- ④ 治療情報の共有・報告が丁寧
- ⑤ 飼い主の満足度が高い
- ⑥ 緊急時の受入れが迅速

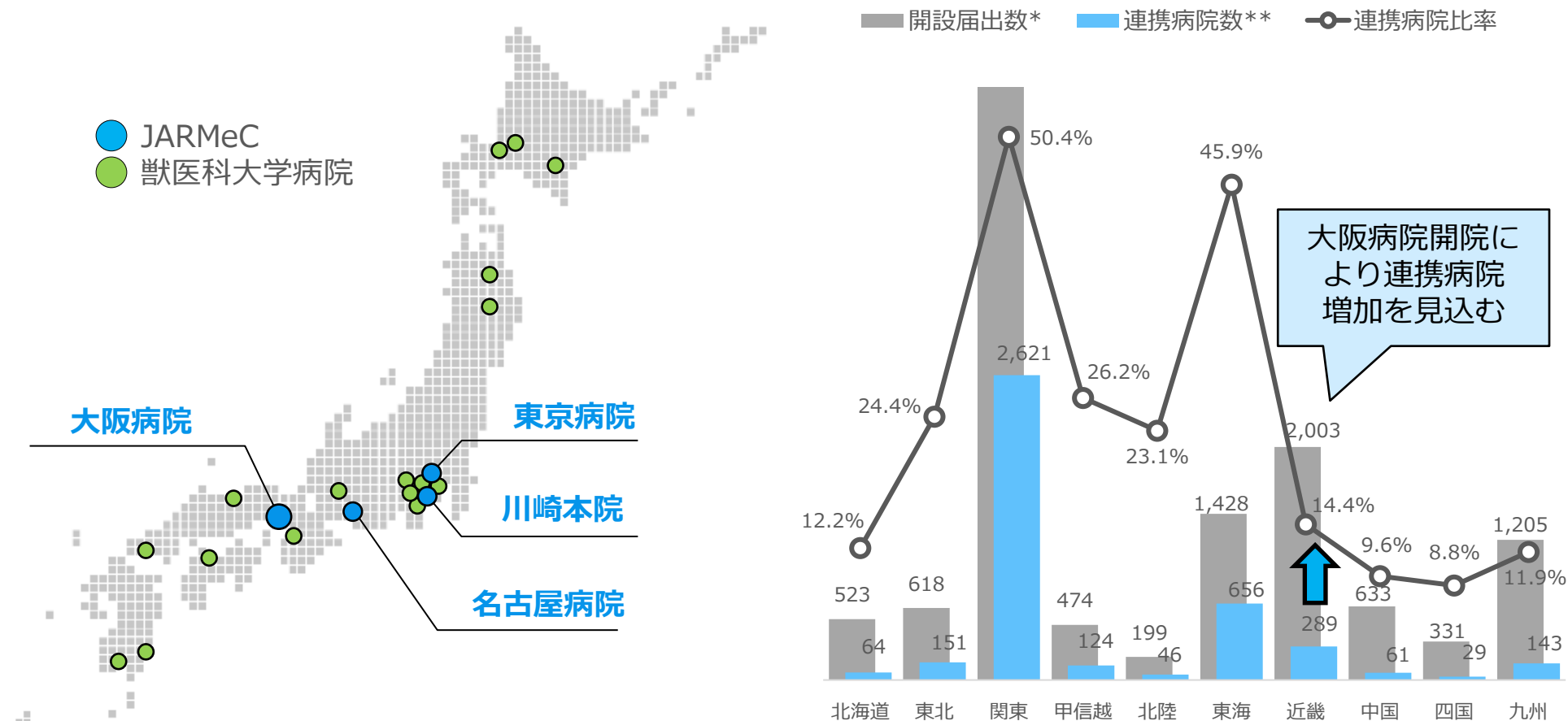
新設病院の立ち上がり状況

- 大阪病院は市場規模の大きさから12ヶ月での回収を見込む

	設備投資額	黒字までの当初計画	結果
1 名古屋病院 (2011年開院)	6億円	24ヶ月	33ヶ月
2 東京病院 (2018年開院)	14億円	9ヶ月	3ヶ月
3 大阪病院 (2023年開院)	22億円	12ヶ月	?ヶ月

今後の拠点展開

- 大阪病院開院により、関東、東海エリア同様に関西エリアを中心に連携病院比率の引き上げを計画
- 今後も全国主要都市に施設の展開を積極的に推進

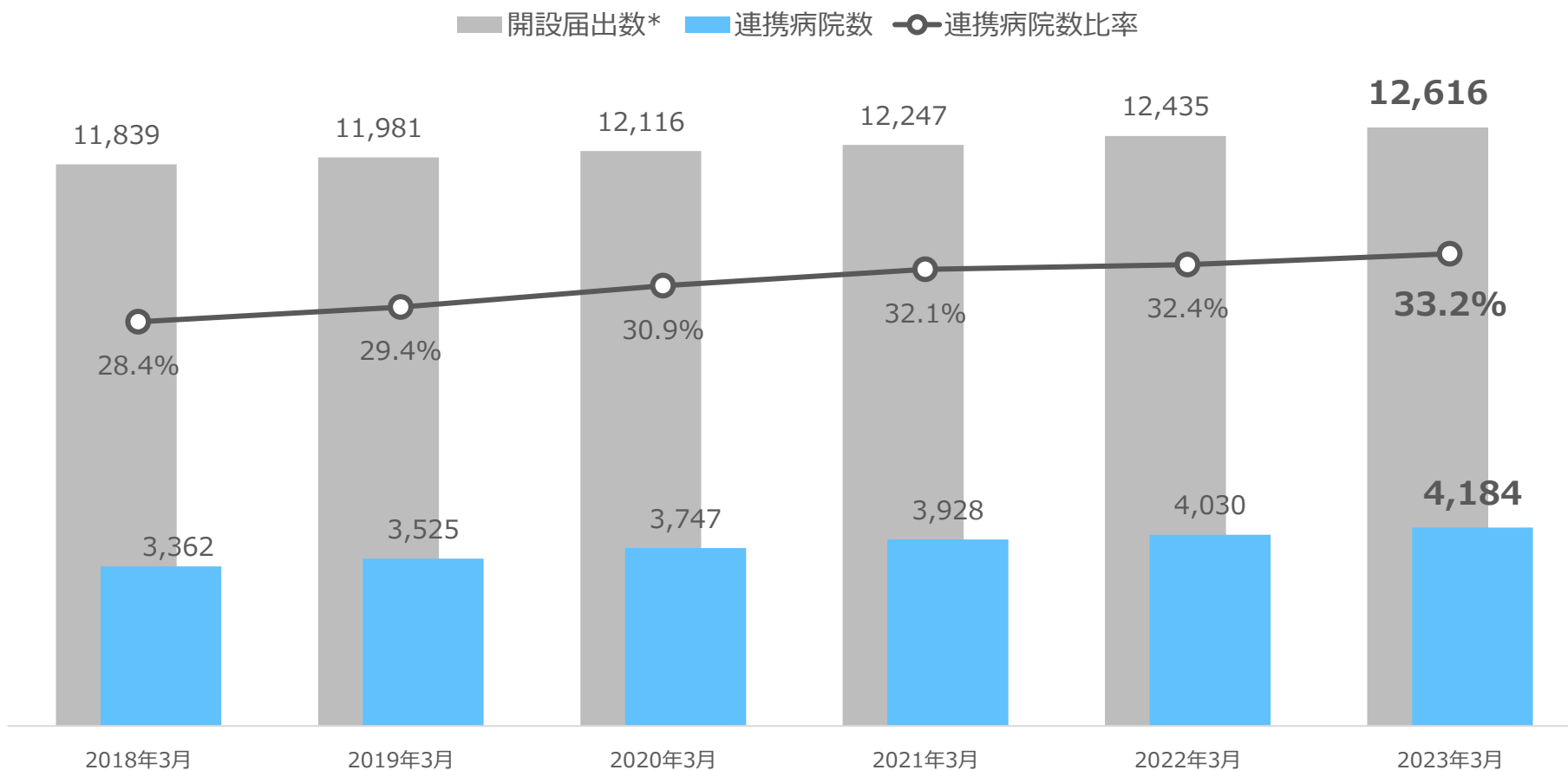


*開設届出数は農林水産省（令和4年12月末時点の小動物診療施設の件数）

**連携病院数は2023年3月末時点の件数

連携病院数は、全国4,184施設に

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2023年3月末時点で全国4,184施設と連携し、連携病院数比率は33.2%まで上昇



*開設届出数は農林水産省（令和4年12月末時点の小動物診療施設の件数）

- 拠点拡大の一環として、獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を継続

人材確保

優秀な人材の確保

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
- 採用特設サイトを刷新
- その他採用活動を積極的に実施



従業員の育成

- 全科ローテーション研修プログラムの実施
(農林水産大臣指定の小動物臨床研修診療施設)
- 症例検討会、各種講習会、臨床・病理検討会の活用
- 豊富で多彩な症例と手術数/専門診療科による高度医療の習得

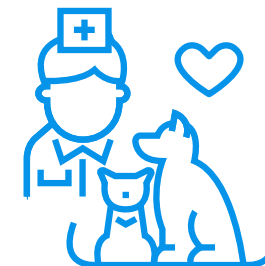


役割の拡大

動物看護師の国家資格化 (愛玩動物看護師)

動物看護師の国家資格化による
役割の拡大、獣医師の負担軽減

業務の効率化・生産性の向上

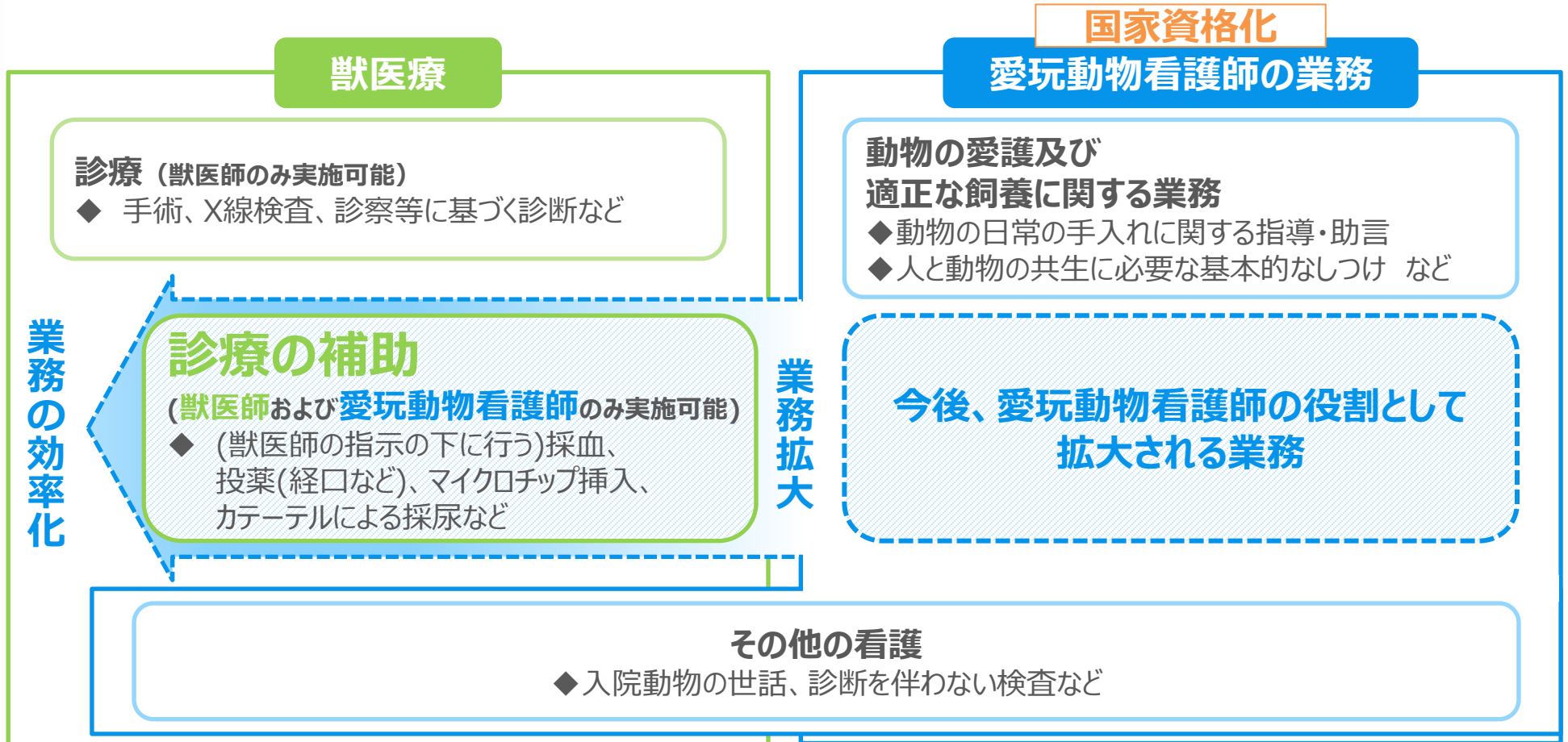


出所：農林水産省/環境省
新しい国家資格「愛玩動物看護師」ができました！
(パンフレット)

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月中旬に実施された

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）



事業領域の拡大

- 患者動物・飼い主に寄り添い、一次診療施設を多方面からサポート



診療外領域においても利便性を高めるシステムやサービスの開発・販売を検討



- 動物医療に関連した事業の買収を積極的に推進



医療機器



保険



ペットフード



医薬品

活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み



- 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」



一次診療施設（動物病院）経由での拡販を目指し、普及促進



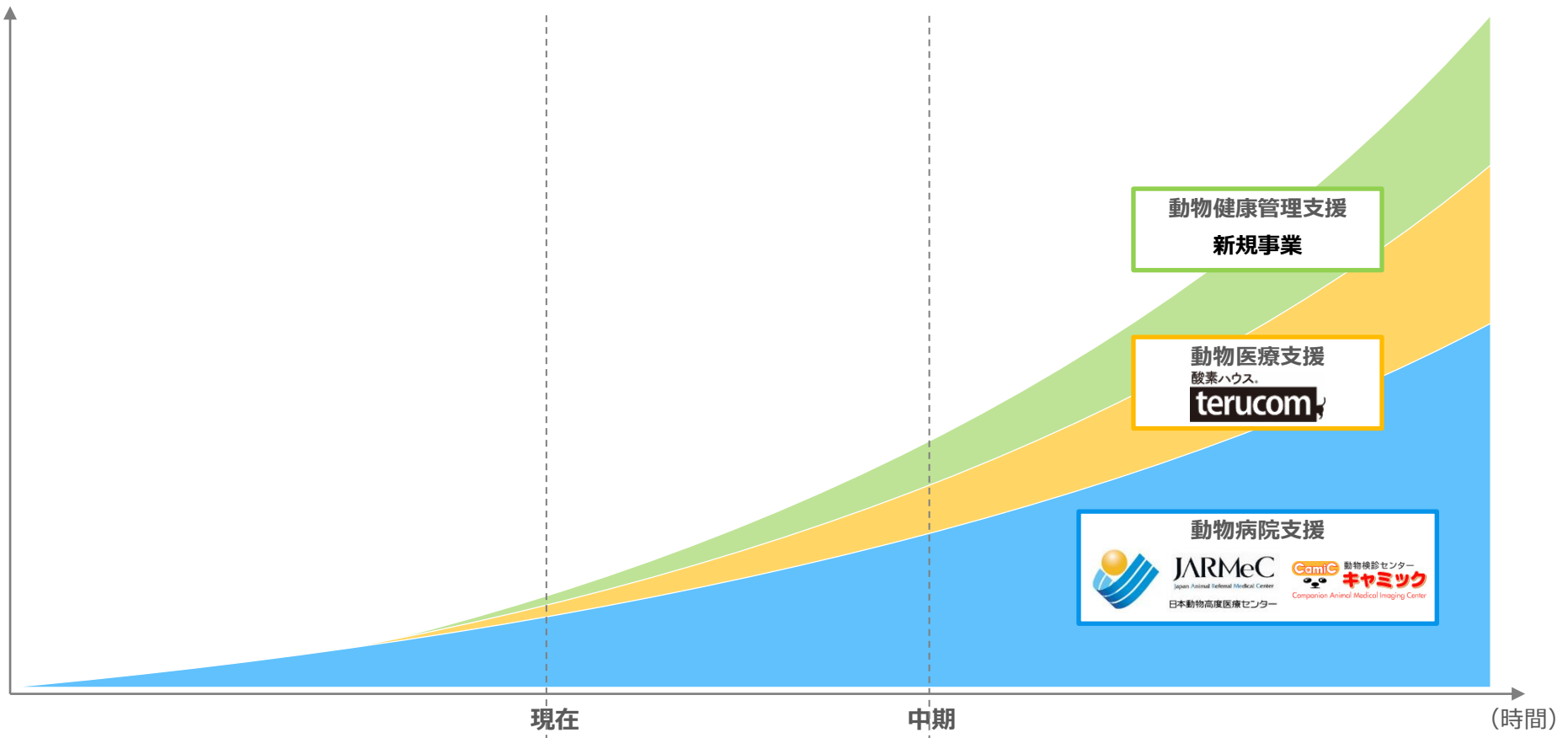
複数の企業との協業を加速

動物医療業界における総合的企業へ

中長期成長イメージ

- 短中期では、二次診療動物病院の拠点を全国的に展開しつつ、動物医療に関連する事業買収等の新規事業取り組みにも着手。一次診療施設との連携を強化し、既存事業の拡大を図る
- 長期的には、事業領域を動物の健康管理等多方面に広げ、動物医療業界における総合的企業としての地位確立を目指す

(事業規模)







JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

appendix



会社概要

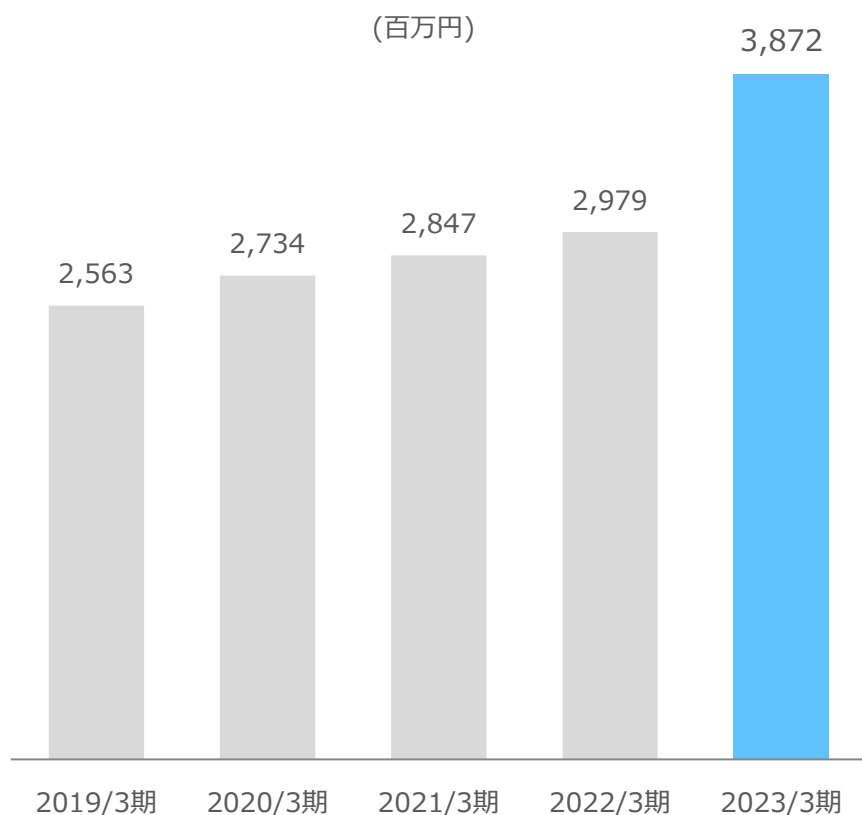
会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 大阪病院 : 大阪府箕面市船場西 3-14-7
設立年月日	2005年9月26日
資本金	791百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	284名（非常勤36名を含む）※グループ全体（2023年4月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック （高度医療機器を用いた動物の画像診断センター運営） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等の製造・販売・貸与）  

沿革

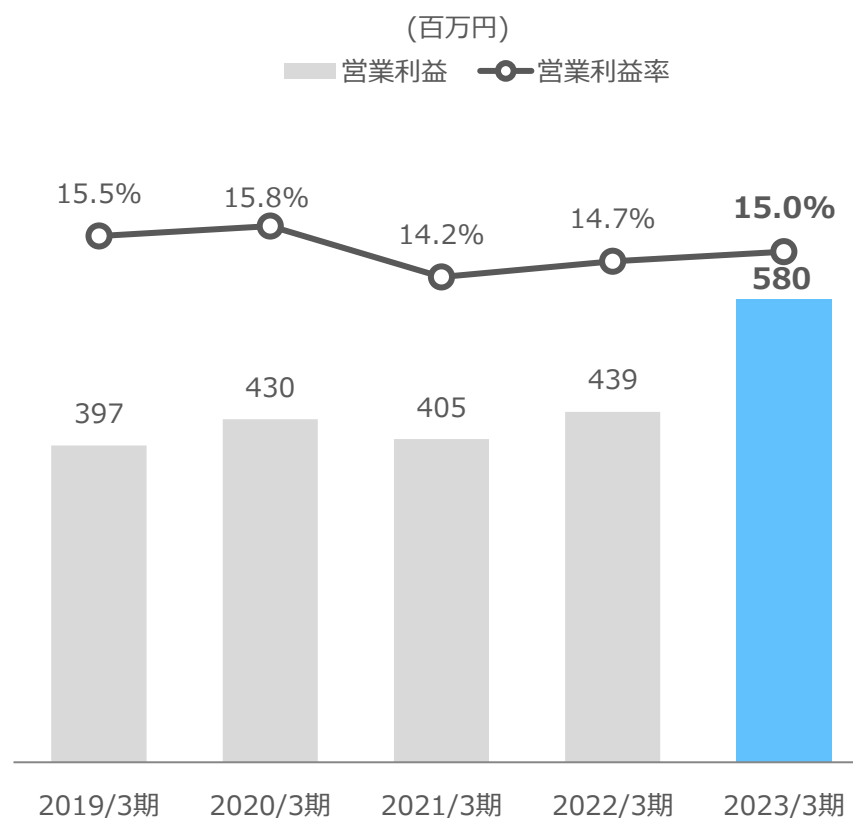
- 2005年9月 ○ 株式会社日本動物高度医療センターを設立
- 2007年6月 ○ 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
- 2009年3月 ○ 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
- 2011年12月 ○ 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
- 2014年1月 ○ 株式会社キャミックを子会社化
- 2015年3月 ○ 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
- 2017年6月 ○ キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
- 2018年1月 ○ 東京病院を東京都足立区に開業
- 2022年2月 ○ キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
- 2022年3月 ○ テルコム株式会社を子会社化
- 2022年4月 ○ 東京証券取引所グロース市場に移行
- 2023年6月 ○ 大阪病院を大阪府箕面市に開業（予定）

- 売上高は、前期比30.0%増収の38億72百万円となり、過去最高売上を更新
- 営業利益は、同32.2%増益の5億80百万円となり、過去最高益を更新。営業利益率は改善

売上高の状況



営業利益・営業利益率の状況



＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理部 企画課 IR担当
044-850-1320
e-mail : ir@jarmec.jp